



# セーフガーディング ワークショップ プログラム

.....  
ファシリテーターガイド  
.....

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

## 1. はじめに

### セーフゲーディングについて

セーフゲーディングとは文字通り、「安全(=セーフ)を守る(=ゲーディング)」ための活動のことで、それらはすべての人々に関係する大切なことです。

児童や青少年を危害から守り、安心して活動できる環境づくりを促進するセーフゲーディング。具体的には、さまざまな虐待や不適切な取り扱いから児童や青少年を保護すること(保護)、健康や成長を阻害する要因をあらかじめ防ぐこと(予防)、すべての児童や青少年のことを最優先とした行動がとれるように必要な教育をすること(教育)となります。また、これらの保護、予防、教育の活動は大人も対象に含まれており、より社会的、組織的な協力が必要とされています。



### なぜセーフゲーディングに取り組むのか

Jリーグでは、「誰もがお互いを受け入れ、安心して前向きに取り組むことができ、オンザピッチ、オフザピッチで、人の成長と模範的な振舞いを勧めるサッカー環境を設ける」というポリシーを掲げています。

**J.LEAGUE SAFEGUARDING**

Jリーグはセーフゲーディングを推進していきます

**セーフゲーディングは 全員が関わる取り組みです**

誰もが人として尊重され、受け入れられ認め合う環境を作り児童、青少年、弱い立場にある大人(スタッフも含む)が安心して安全に活動でき、楽しい経験が得られるサッカー環境を提供すること

**DEFINITION**  
セーフゲーディングの定義  
以下のような内容を意味します

児童・青少年	弱い立場にある大人
<b>セーフゲーディングとは</b> 児童や青少年が安心して活動できる環境づくりを促進し被害から守るための取り組みのことです。それは、下記の事例を含みます。 ●虐待や不適切な取り扱いから児童・青少年を保護すること ●健康や成長への危害を防ぐこと ●成長を促す安全環境づくりを奨励し目標を達成すること ●全ての児童と青少年の事を最優先とした行動がとれるようにすること	<b>大人を対象としたセーフゲーディングとは</b> 虐待や見えないいじめがない、安心して安全な生活を送る権利を確保する取り組みのことです。関わるスタッフや組織が協力し合い、保護者や児童や青少年の安全を最優先から取り立てる大人が身体的、精神的、社会的に適切な状態で活動できるようにします。

JLEAGUE SAFEGUARDING

児童や青少年、弱い立場にある大人(スタッフも含む)が安心・安全に活動し、楽しい経験が得られるサッカー環境を提供することを目指し、セーフゲーディングの活動を推進しています。

また、Jリーグはすべての人の未来のために、セーフゲーディングを広めていきたいと考えています。私たちが大好きなスポーツは、人を幸せにするものであり、誰もが未来へ向かう今を楽しみ、それぞれの可能性を大切に育んでほしい。すべての人々が大切にされ、受け入れられ、認め合い、安心して大好きなことに打ち込める環境をつくっていききたいという思いで取り組んでいます。

**POLICY**

**Jリーグのセーフゲーディングポリシー**

誰もがお互いを受け入れ、安心して前向きに取り組むことができ、オン&オフザピッチで、人の成長と模範的な振舞いを勧めるサッカー環境を設けます

## Jリーグにおけるセーフガーディングの取り組み

### セーフガーディングワークショップの開催

2020年にJリーグセーフガーディングワークショップを開始しました。それ以降、定期的にワークショップを開催しています。各クラブにはセーフガーディング担当者を必ず配置していただき、その担当者がワークショップに参加することになっています。

ワークショップでは、セーフガーディングについての基本的な考え方に加え、ハラスメント事例の理解を促進するためのグループディスカッションを行い、クラブからのベストプラクティス事例を共有したりしています。そして、JリーグとJクラブによる具体的なアクションにつなげていくことを目指しています。



### セーフガーディングガイドラインの発行

Jリーグセーフガーディングガイドラインは、国際サッカー連盟（FIFA）が定める「FIFAガーディアンズ」を日本サッカー協会（JFA）が監訳した日本語版を基に、Jリーグセーフガーディングワーキンググループが試行版として作成しました。特に、JFAリスpekt・フェアプレー委員会のアドバイスを受けながら、JFAサッカーファミリー安全保護宣言とJFAチャイルドプロテクションポリシーの趣旨を反映させています。主な内容は以下の通りです。

- ・ FIFAによるサッカーにおける子どもたちの安全保護の5つの原則
- ・ JFAサッカーファミリー安全保護宣言
- ・ サッカー活動における子どもの見守りに関するガイドライン
- ・ サッカーの試合と練習に関するセーフガーディングガイドライン
- ・ 施設の利用に関するガイドライン
- ・ 大会への遠征の計画と実施に関するガイドライン
- ・ サッカー活動における移動に関するガイドライン
- ・ サッカー活動に関する情報発信のガイドライン：ソーシャルメディアによる選手の画像と通信の利用など
- ・ 選手（子ども、あるいは子どもたち）の行方が分からなくなった場合：行方不明者ポリシー

### セーフガーディング特設サイトの開設

Jリーグは、セーフガーディングの考えを広く世の中に浸透させたいという思いから、セーフガーディング特設サイトを開設しました。特設サイトでは、JリーグやJクラブ、そしてFIFAやJFAのセーフガーディングに対する取り組みを紹介しています。

また、みなさんがセーフガーディングの知識を深め、今後どのようなアクションを起こせばいいのかを考えるきっかけとなるようなチェックリストも掲載しています。



### サイトURL

[https://www.jleague.jp/special/safeguarding/?utm\\_source=twitter&utm\\_medium=social](https://www.jleague.jp/special/safeguarding/?utm_source=twitter&utm_medium=social)



## 2. 「セーフガーディング」ワークショップ プログラム

2020年から、セーフガーディング担当者や指導者向けのワークショップを開催してきましたが、この度、小学生年代の選手および保護者向けのワークショップを推進していきます。  
このプログラムはJリーグのクラブチームでの利用だけではなく、スポーツに関わる全てのチームにて実施いただけるよう広く公開をしていきます。

### プログラムコンセプト

#### セーフガーディング意識の高い選手・保護者になってもらうための セーフガーディング理解の「ファーストステップ」プログラム

具体的言語化による概念獲得と、体験的理解で、倫理観の醸成・意識変容を促す

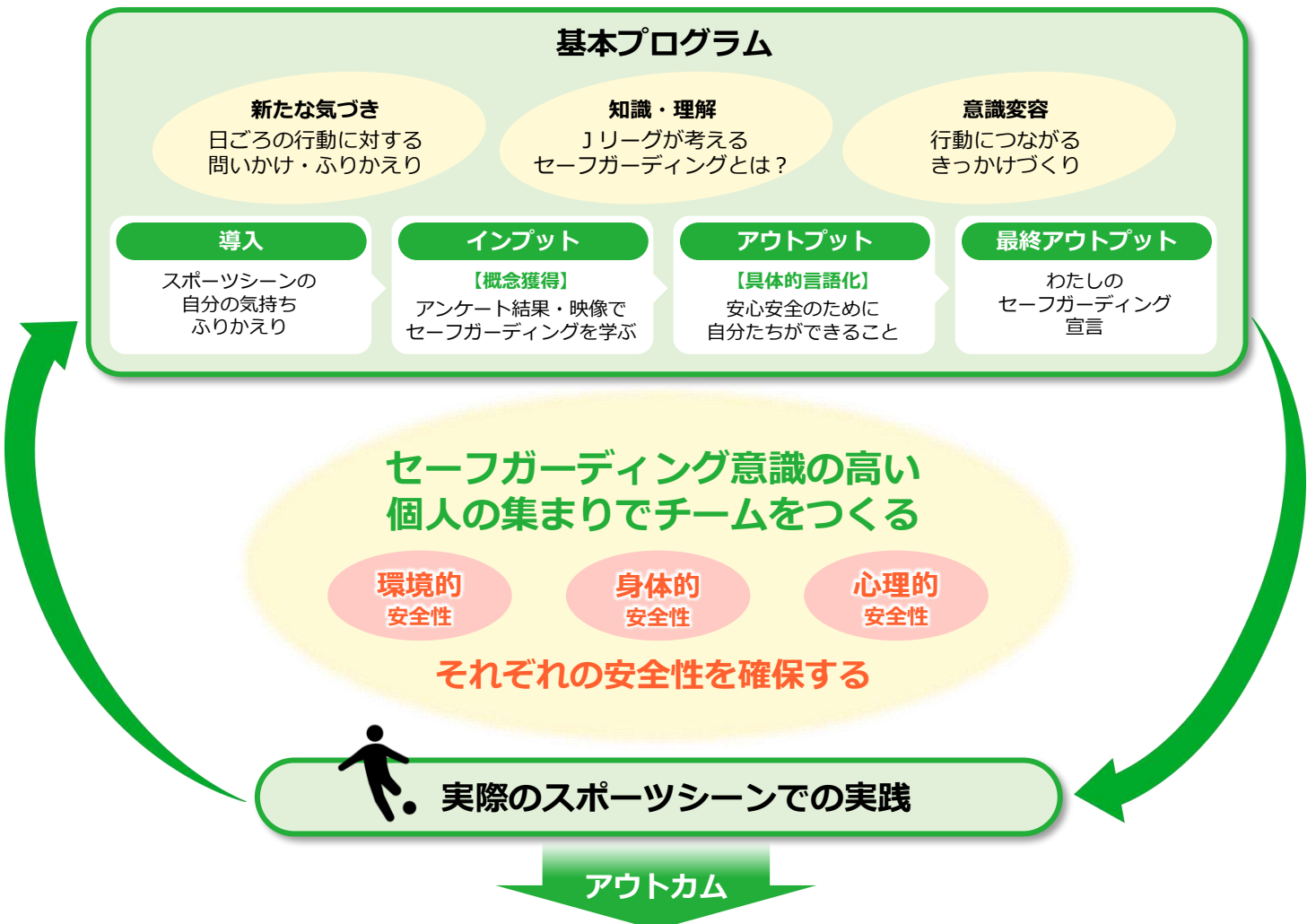
#### ●対象

Jリーグ、Jクラブに  
所属する  
小学生年代の選手と保護者

サッカーに関わる  
小学生年代の選手と保護者

サッカー以外の  
スポーツに関わる  
小学生年代の選手と保護者

#### ●プログラムデザイン



信頼ある個々人の関係構築による集団意識の高まり  
よりよいスポーツコミュニティの実現



# プログラムを実施するファシリテーターに求められること それは、 ファシリテーターの体験を通して、セーフガーディングを実践すること

プログラム参加者の思考を促進し、体験や取り組みを支援するように舵取りをする人を  
ファシリテーターと呼びます。

## ファシリテーターの役割

### ①セーフガーディング環境づくりとファシリテーション

自分の意見を我慢することなく、思ったことを発言しても、このチームなら大丈夫！という安心や、のびのびとコミュニケーションできる関係性をつくることで、環境的・身体的・心理的安全性が確保されていると感ずることが出来ます。それには、一人一人の発言や考えを認めあうファシリテーションが有効ですし、指導ファシリテーターの唯一の解を押し付けるような情報提供型の進め方ではなく、思考支援型のアプローチをすることで、考える選手、自分の考えを発信する選手、そしてお互いの成長を認めあう選手を育てることにつながります。

質問・発言  
しやすい  
雰囲気をつくる

発言の機会を  
均等にする

勇気をもって  
発言することを  
楽しむような  
雰囲気づくり

前向きな姿勢  
態度を  
褒める

### ②プログラムの進め方

セーフガーディング意識を高めるプログラムを実施するためには、心理的安全性の確保（担保）が欠かせません。「正しい唯一の解」を強制するような伝達者であってははいけません。プログラム進行は、一方的に説明をする「情報提供型アプローチ」ではなく、ファシリテーターとして「思考支援型のアプローチ」を進めるよう心がけましょう。

### ファシリテーションのポイント

- ① 誰がどんな発言をしても、感情的に否定・拒絶されることがないように、徹底する。
- ② 自分の考えを、自由に発想・発言できるように促し、褒める。
- ③ 自分の考えを、仲間に伝える姿勢を大切に、苦手な子には発表内容を補足するなど発表の支援する。  
※発表したくない選手の気持ちも配慮する言葉かけが重要です。
- ④ 共有時には、多様な意見があることを強調して確認する。
- ⑤ 仲間の考えによって、自分の考えが変化＝進化することを促す。



安心感のあるファシリテーションのために  
参加者と共有する3つのルール

なるほどと思ったら  
拍手をしよう

思いついたら  
声に出してみよう

他の人の考えも  
参考にしてOK!

「発言しやすい雰囲気」と「馴れ合い」は違います。  
お互いの発表や考えを認め合うルールを徹底するのも、ファシリテーターの大切な役割です。

### 3. プログラム内容

## プログラムの流れ

ねらい

- ・セーフゲーディングの考え方を知り、理解する
- ・セーフゲーディングがめざす具体的な状況を理解する
- ・セーフゲーディングの考え方に反する状況に遭遇した際に、アクションをとる必要性を理解する

時数

60分  
※時間により30分～60分など自由にアレンジして活用ください

### 保護者の参加について

本ワークショップは、保護者も一緒に参加することを推奨しています。ワークシートは、選手・保護者兼用で、選手と同じように保護者もワークをすると効果的です。最後のセーフゲーディング宣言は保護者にも発表してもらいましょう

時間	学習内容・活動	スライド
導入 5分	<p>1.ワークショップのめあてを確認する※直前の不安や緊張をやわらげる工夫</p> <p><b>? 問いかけ</b> サッカーを楽しいと思うときはどんなとき？ また楽しくないと思うときはどんなとき？</p>	
展開 ① 20分	<p>2.今の自分のサッカー活動のときに感じていることを確認する（7分）</p> <p><b>ワーク①</b> サッカーをしているとき、感じた気持ちを考えよう</p> <p>ワークシートを配布して、それぞれ個人で、「楽しい」と感じたとき、「楽しくない」と感じたことがあるのか、またどのようなときにその気持ちになったのかをふりかえってワークシートに記入する。 (シートは自分のためのもので共有は行わないことを伝える。)</p> <p>3.日本全国のサッカー選手たちのアンケート結果をもとに、現状を確認する（5分） JFAのアンケート結果（選手の生の声）をもとに、選手たちの意見を確認する。</p> <p>4.セーフゲーディングの説明をする（3分）</p> <p>5.映像「セーフゲーディング宣言」を視聴し、セーフゲーディングの概念を知る（5分） 映像を視聴し、楽しくサッカーができるように、環境を確保していく取り組みのことをセーフゲーディングであること、Jリーグやクラブ、コーチもセーフゲーディングを推進していきたいことを伝える。 (見どころは自分の周りで起きていないか。あとで用語の質問も受けつける。)</p>	
展開 ② 20分	<p>6.みんなが楽しく安心安全にサッカーができる場をつくるために、大切なことを考える</p> <p><b>ワーク②</b> みんなが、楽しく、サッカーをするために自分たちにできることを考えよう</p> <p>①個人ワーク（5分） ②個人で考えたことをグループで共有（10分） ③全体で発表する（5分）</p>	
まとめ 15分	<p>7.自分のセーフゲーディング宣言とまとめ</p> <p><b>宣言</b> この時間で、何を理解し、何を感じたかを伝えあい、セーフゲーディング宣言を行う</p> <p>①個人で自分のセーフゲーディング宣言をまとめる（2分） ②全体で発表をする（10分） ③各クラブでもセーフゲーディングの取り組みを進めていること相談窓口があることを伝える（3分）</p> <p>8.終了後、アンケートをとる</p>	

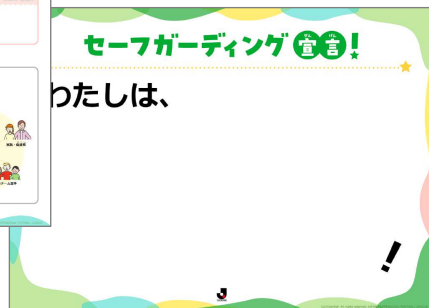
## 教材一覧



進行スライド



映像「Jリーグ セーフゲーディング宣言」  
※スライド内のリンク先に遷移してYouTube視聴



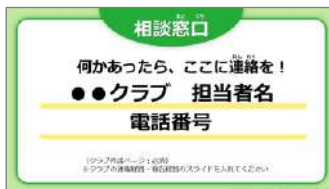
参加者用ワークシート（選手・保護者とも同じワークシート）  
A3もしくはB4サイズで両面印刷

表面のワークシートは2種類準備していますので使いやすい方をお使いください。

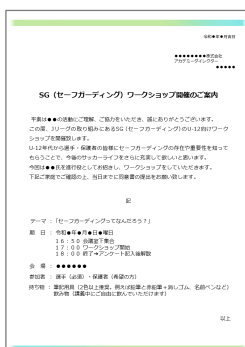
## 準備物一覧

### ■ 準備物一覧

- ・パソコン
- ・スクリーン/モニター
- ・スピーカー
- ・参加者用ワークシート 参加者分印刷
- ・油性もしくは水性ペン 参加者分（セーフゲーディング宣言用）
- ・進行スライド（※注1）
- ・承諾書（※注2）



（※注1）  
進行スライド 32枚目にシートに各団体のセーフゲーディング担当者の名前および連絡先を記載してアナウンスするように準備ください。



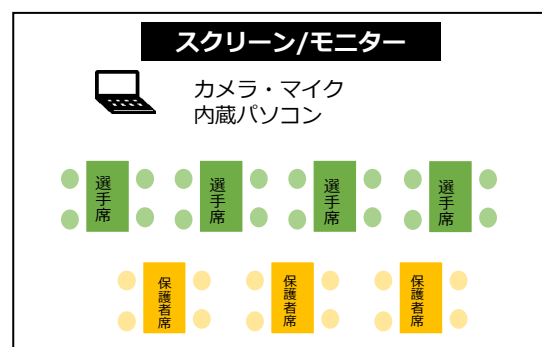
（※注2）  
本ワークショップの開催にあたって、事前にワークショップの内容や意図を参加者に説明し、選手・保護者ともに気持ちの準備をしてもらえるように「承諾書」を活用ください

### ■ 参加者の持ち物

- ・スマートフォン※
  - ・筆記用具
- ※屋外などインターネット環境がない会場では、選手のスマートフォンを使って映像視聴をします。

### ■ ワークショップ会場レイアウトイメージ

レイアウトは、選手が前の席、保護者は後ろ席で、選手と保護者をわけて準備ください。参加する保護者も選手と同じワークをしてプログラムに参加します。



- 参加者のストレスを取り除く配慮を
  - ・モニターの視認性
  - ・ネットワーク環境
  - ・保護者の席の確保
- 室温・水分補給などの環境への配慮を

# 役割分担表

## ■ 進行スライド準備



進行スライド一式

## ■ 担当者



進行スライド（報告経路、32枚目差し込み用）

クラブのセーフゲーディング担当者の名前および連絡先などを分かりやすく記載  
複数ページ可

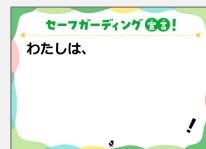


映像「Jリーグ セーフゲーディング宣言」  
※スライド内のリンク先に遷移してYouTube視聴

※屋外などインターネット環境がない会場では、選手や保護者のスマートフォンを利用して視聴

## ■ ワークシート、参加承諾書およびアンケート印刷

参加者用ワークシート（選手・保護者とも同じ）  
A3もしくはB4サイズで片面印刷



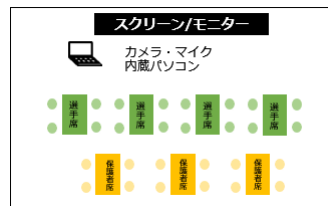
+



表面のワークシート（2種類のうちどちらか）

## ■ 会場や準備物の事例

- 会議室（1室予約、3時間、選手と保護者が適切な距離で参加できる広さ）
- スクリーン/モニター/代用品（ホワイトボード）（1台、参加者との適切な距離、角度）
- テーブル/椅子/演台（            本、            脚）
- 照明（適切な明るさの確保）
- 空調（適切な室温の確保）
- 電源（            口）
- Wi-fi（            名分利用可）
- 周辺の利用状況（同時刻の騒音の有無）
- トイレ
- 駐車場（            台、            円/時間、利用可能時間）
- 施設入口～会場までの導線の確保、安全性



## ■ 備品準備の事例

- パソコン（1台）予備分
- プロジェクター（1台）
- レーザーポインター（1台）
- スピーカー（1個）
- 延長コード（            m、            本）
- 撮影機材（カメラ、三脚）
- 油性もしくは水性ペン（セーフゲーディング宣言用）（参加人数分）
- 養生テープ（名前記載用）+選手リスト

## ■ 参加者の持ち物の事例

- 筆記用具（2色以上推奨。例えば黒と赤ペンなど）
- スマートフォン（個別に映像視聴する場合）
- 飲料



## 役割分担表事例（クラブ事情に応じて変更）

### 担当一覧

担当項目	担当
ワークショップ全体責任者	
ワークショップ進行担当および内容準備	
会場準備および準備物担当	
クラブ内の連携担当	

### 事前チェックリスト

日時	担当項目	担当
	運営ミーティング①（関係者主旨理解など）	
	運営ミーティング②（担当確認・進捗確認など）	
	参加者関係者への案内	
	参加同意書の配布、回収	
	備品搬出、印刷物準備	
	運営ミーティング（前日）進捗確認	

### 当日 チェックリスト

**中止の判断：3時間前に一度判断、随時更新**

日時	担当項目	担当
	会場入り、備品搬入	
	運営ミーティング（当日）会場設営、ワークショップ全体確認	
	会場設営開始 ワークショップ15分前完了	
	参加者（保護者）受入れ	
	ワークショップ開始	
	撮影（映像・写真）	
	ワークシート配布	
	記入サポート	
	アンケート配布	
	ワークショップ終了	
	アンケート回収終了、参加者送り出し、ふりかえり、撤収	

### 事後チェックリスト

担当項目	担当
アンケートデータ（PDF）提出	

## ワークのねらい

- ・自分の意見以外は、別の色のペンで記入させるよう伝える。
- ・書きたくないことは書かない。氏名入りで記入しないことを伝える。
- ・ワークシートへの記入は、保護者は保護者の立場、コーチはコーチの立場で記入するよう伝える。

### ワーク①のねらいと 実施のポイント

- ・サッカーをしている時の自分の気持ちをふりかえり、さまざまな気持ちを感じていることに気づかせる。
- ・特に、どのような時に「楽しくない=不安・悲しみ・怒り」を感じるのかをしっかりと自分の言葉で言語化させる。  
※ワーク指示の時に、楽しくないと思うことが悪いのではないことを伝えて、自分の気持ちを正直に言語化させることが、このワークのポイント。書かないことも受け入れる。

### ワーク②のねらいと 実施のポイント

- ・セーフガーディングの視点にたって、オンザピッチ、オフザピッチのシーンで自分ができること、関連する他の人ができることを考え、言語化させる。
- ・グループ共有の際に、チームメイトのすべての意見を色の違うペンでワークシートに記入させ、考えがつながっている意見を線でつなげたりすると、多様な意見が整理されてよい。
- ・「相談する」という意見がしやすいように、ワーク中に、促すような声掛けを行うとよい。

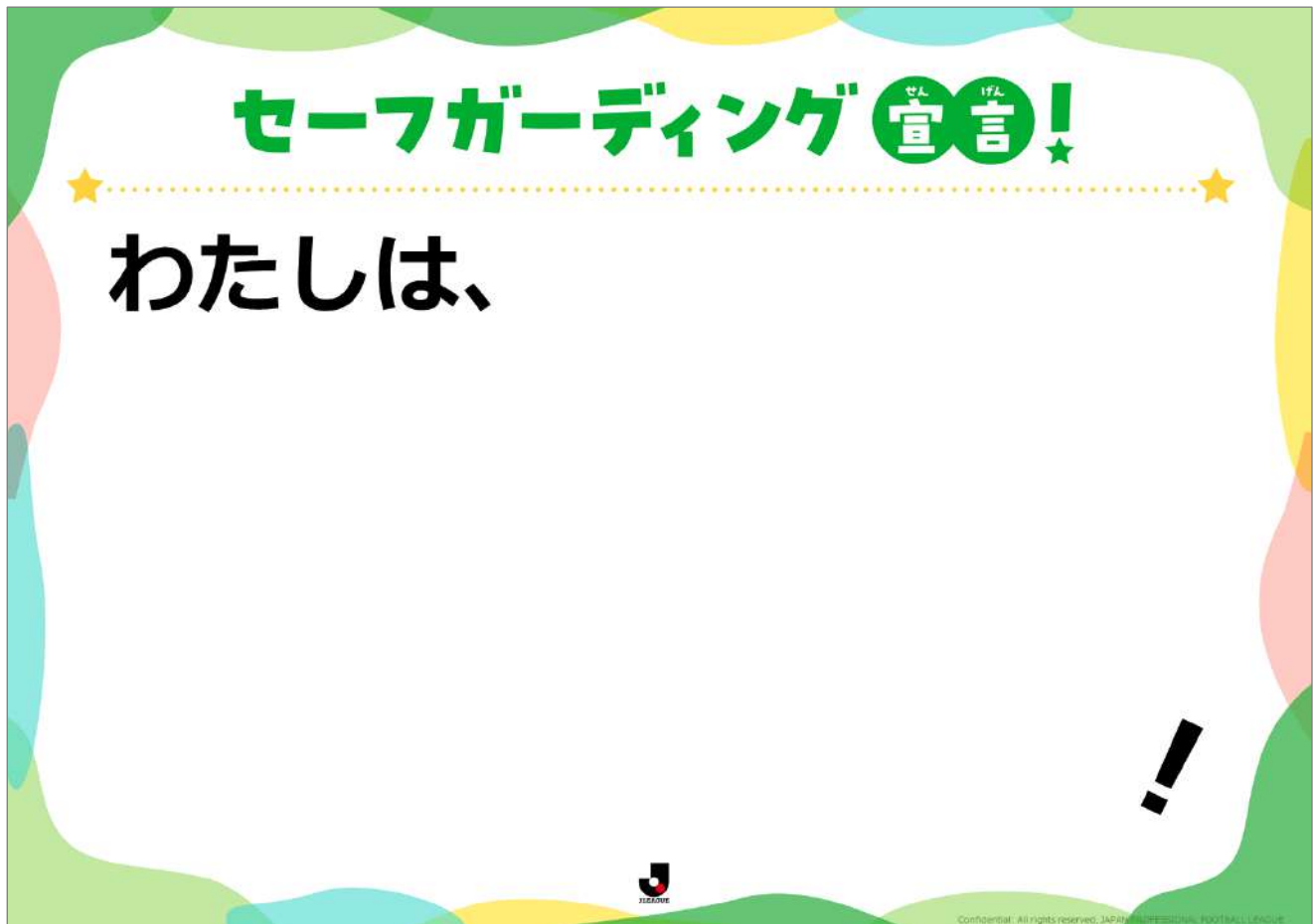
#### 参加選手の年齢が高い場合

発達段階的に、イメージマップを使って自由に考え、チームメイトとの共有の際に関連して考えることができると判断した場合、別のワークシートを準備していますので、こちらをお使いください。



# セーフゲーディング せんげん宣言!

- ・ワーク②でのさまざまな視点で得たことをふりかえり、わたしのセーフゲーディング宣言として、言語化させる。
- ・個人で考えた後は、チーム全体で一人ずつ大きな声で発表をし、全体で個々人が考えたことを尊重し、応援していく雰囲気醸成する（拍手など）。
- ・宣言は、選手だけではなく、参加している保護者・コーチも発表すると一体感がでて効果的。



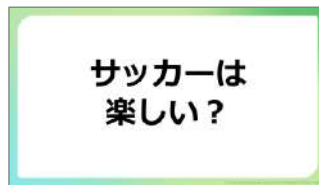




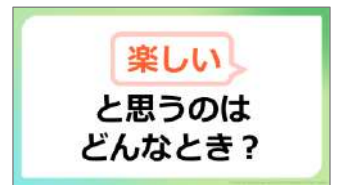
1



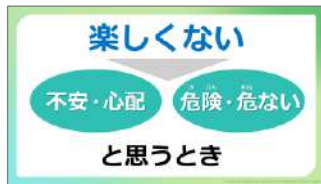
2



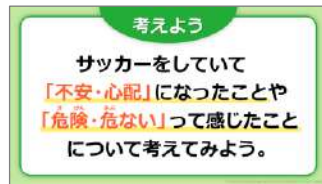
3



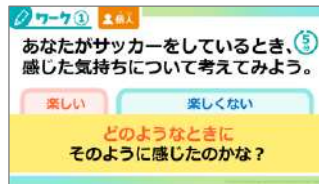
4



5



6



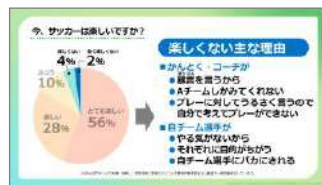
7



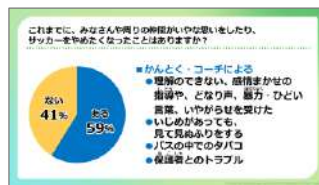
8



9



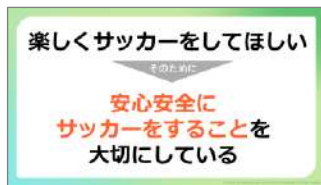
10



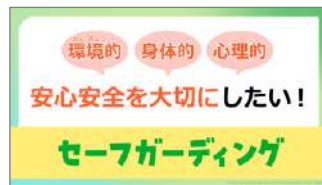
11



12



13



14



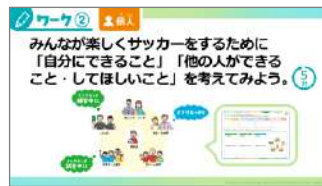
15



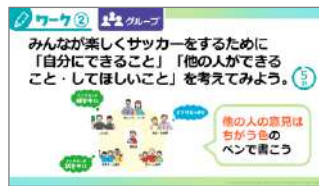
16



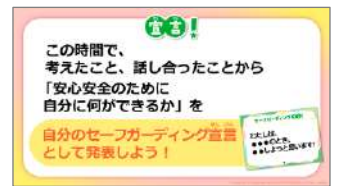
17



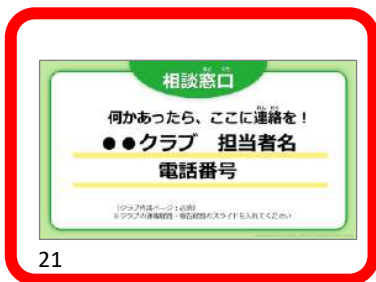
18



19



20



21



22

各団体のセーフガーディング窓口担当者の名前および連絡先を記載したスライドを作成してアナウンスするように準備ください。



# ワークシート記入例

## 記入例

### ワーク①

あなたが サッカーをしているとき、感じた気持ちを考えよう。  
どのような（どのようなことがあった）ときに「そのように感じたのか」をワークシートに書いてみよう。

#### 喜び・楽しい

- 練習をして、できることが増えた時
- 失敗しても仲間にドンマイって言ってもらったとき
- 試合に勝った時

#### 不安・心配

- 相手が危ないタックルをする
- ボールや用具が出しっぱなし
- 監督がプレーにうるさくて自分で考えてプレーができない

#### こわい・悲しい

- ミスしてしまいコーチに怒られた
- 観戦している大人が大きな声で審判や相手の選手にヤジを飛ばす

#### いかり

- チームメイトのミスが多い
- 思っているように上手くない

### ワーク②

みんなが楽しくサッカーをするために、自分ができること、他の人ができること・してほしいことを考えて書こう。

#### オンゼピッチ 試合中

- 自分ができること
  - チーム内でミスがあっても、チャレンジしたのであれば「ドンマイ」と声をかける
  - 良いプレーには、チームとわず、ナイスプレーと声をかける
- 他の人ができること・してほしいこと
  - 危険なプレーはしない
  - 選手の悪口を言わない
  - 審判を大きな声で批判しない
  - 試合中に、妹をみておいてほしい

#### オンゼピッチ 練習中

- 自分ができること
  - 練習に手を抜かない
  - チーム内でミスがあっても、チャレンジしたのであれば「ドンマイ」と声をかける
- 他の人ができること・してほしいこと
  - AチームだけでなくBチームも指導してほしい
  - 自分たちの話を聞いてほしい
  - なぜだめだったのか、理由を説明してほしい
  - 全力を出す
  - 練習にちゃんと来る

#### オフゼピッチ

- 自分ができること
  - 食事、特に朝食をたべる
- 他の人ができること・してほしいこと
  - 朝食を準備してほしい
  - いじめをしない



## 記入例

### ワーク①

あなたが サッカーをしているとき、感じた気持ちを考えよう。  
どのような（どのようなことがあった）ときに「そのように感じたのか」をワークシートに書いてみよう。

#### 喜び・楽しい

- 練習をして、できることが増えた時
- 失敗しても仲間にドンマイって言ってもらったとき
- 試合に勝った時

#### 不安・心配

- 相手が危ないタックルをする
- ボールや用具が出しっぱなし
- 監督がプレーにうるさくて自分で考えてプレーができない

#### こわい・悲しい

- ミスしてしまいコーチに怒られた
- 観戦している大人が大きな声で審判や相手の選手にヤジを飛ばす

#### いかり

- チームメイトのミスが多い
- 思っているように上手くない

### ワーク②

みんなが楽しくサッカーをするために、自分ができること、他の人ができること・してほしいことを考えて書こう。

- 練習に手を抜かない
- チーム内でミスがあっても、チャレンジしたのであれば「ドンマイ」と声をかける
- 良いプレーには、自分のチーム相手チームとわず、ナイスプレーと声をかける

#### オンゼピッチ 練習中に

- 練習に手を抜かない
- チーム内でミスがあっても、チャレンジしたのであれば「ドンマイ」と声をかける

- AチームだけでなくBチームも指導してほしい
- 自分たちの話を聞いてほしい
- なぜだめだったのか、理由を説明してほしい

#### オフゼピッチで

- 審判を大きな声で批判しない
- 朝食を準備してほしい
- 試合中に、妹をみておいてほしい

#### オンゼピッチ 試合中に

- 危険なプレーはしない
- 選手の悪口を言わない

- 危険なプレーはしない
- 選手の悪口をいわない
- 全力を出す
- いじめをしない
- 練習にちゃんと来る

# ワークシート（例）

## 選手

**ワーク①** あなたが サッカーをしているとき、感じた気持ちを考えてよう。どのような（どのようなことがあった）とき「そのように感じたのか」をワークシートに書いてみよう。

嬉しい・楽しい (笑顔) 不安・心配 (汗) ごわい・楽しい (笑顔) いかり (怒り)

**ワーク②** みんなが楽しくサッカーをするために、自分ができること、他の人ができること、してほしいことを考えて書こう。

オンライン試合中	オンライン練習中	オフサピッチ
自分ができること オンライン試合中 自分の得意なプレーを たくさん使いたい	自分ができること オンライン練習中 仲間と一緒に練習したい	自分ができること オフサピッチ 仲間と遊ぶのが好き
他の人ができること オンライン試合中 相手の得意なプレーを 見たい	他の人ができること オンライン練習中 仲間の練習を見てみたい	他の人ができること オフサピッチ 仲間の遊びを見てみたい

**ワーク①** あなたが サッカーをしているとき、感じた気持ちを考えてよう。どのような（どのようなことがあった）とき「そのように感じたのか」をワークシートに書いてみよう。

嬉しい・楽しい (笑顔) 不安・心配 (汗) ごわい・楽しい (笑顔) いかり (怒り)

**ワーク②** みんなが楽しくサッカーをするために、自分ができること、他の人ができること、してほしいことを考えて書こう。

オンライン試合中	オンライン練習中	オフサピッチ
自分ができること オンライン試合中 自分の得意なプレーを たくさん使いたい	自分ができること オンライン練習中 仲間と一緒に練習したい	自分ができること オフサピッチ 仲間と遊ぶのが好き
他の人ができること オンライン試合中 相手の得意なプレーを 見たい	他の人ができること オンライン練習中 仲間の練習を見てみたい	他の人ができること オフサピッチ 仲間の遊びを見てみたい

**ワーク①** あなたが サッカーをしているとき、感じた気持ちを考えてよう。どのような（どのようなことがあった）とき「そのように感じたのか」をワークシートに書いてみよう。

嬉しい・楽しい (笑顔) 不安・心配 (汗) ごわい・楽しい (笑顔) いかり (怒り)

**ワーク②** みんなが楽しくサッカーをするために、自分ができること、他の人ができること、してほしいことを考えて書こう。

このワークシートには、オンライン試合中、オンライン練習中、オフサピッチの3つの状況について、自分ができること、他の人ができること、そしてしてほしいことを手書きで記入されています。また、感情のアイコンも活用されています。

**ワーク①** あなたが サッカーをしているとき、感じた気持ちを考えてよう。どのような（どのようなことがあった）とき「そのように感じたのか」をワークシートに書いてみよう。

嬉しい・楽しい (笑顔) 不安・心配 (汗) ごわい・楽しい (笑顔) いかり (怒り)

**ワーク②** みんなが楽しくサッカーをするために、自分ができること、他の人ができること、してほしいことを考えて書こう。

このワークシートには、オンライン試合中、オンライン練習中、オフサピッチの3つの状況について、自分ができること、他の人ができること、そしてしてほしいことを手書きで記入されています。また、感情のアイコンも活用されています。

## 保護者

**ワーク①** あなたが サッカーをしているとき、感じた気持ちを考えてよう。どのような（どのようなことがあった）とき「そのように感じたのか」をワークシートに書いてみよう。

嬉しい・楽しい (笑顔) 不安・心配 (汗) ごわい・楽しい (笑顔) いかり (怒り)

**ワーク②** みんなが楽しくサッカーをするために、自分ができること、他の人ができること、してほしいことを考えて書こう。

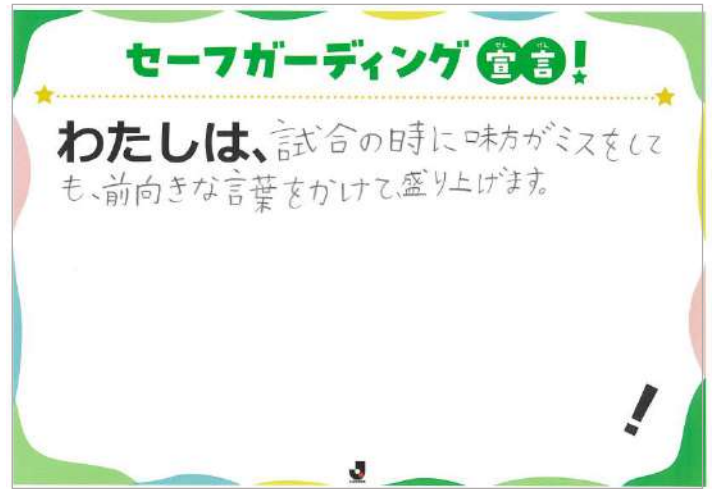
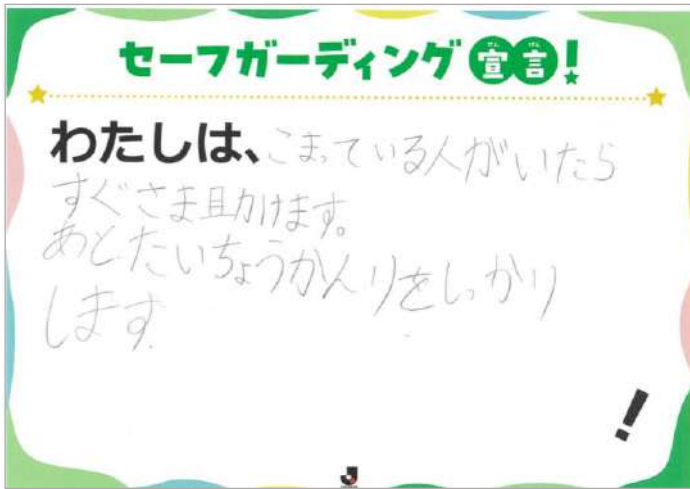
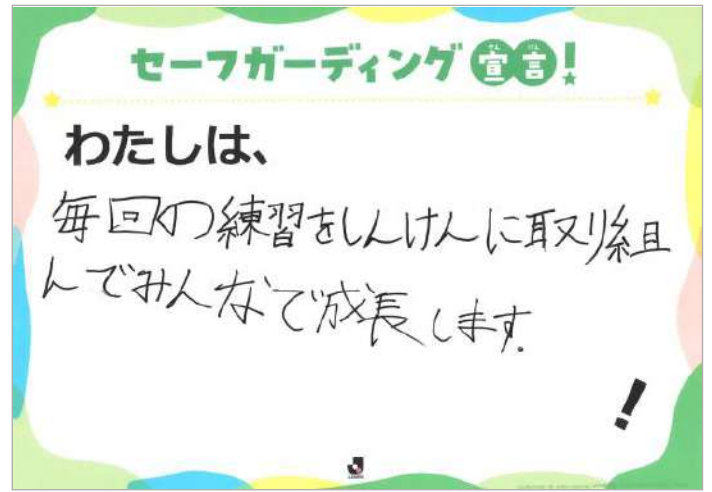
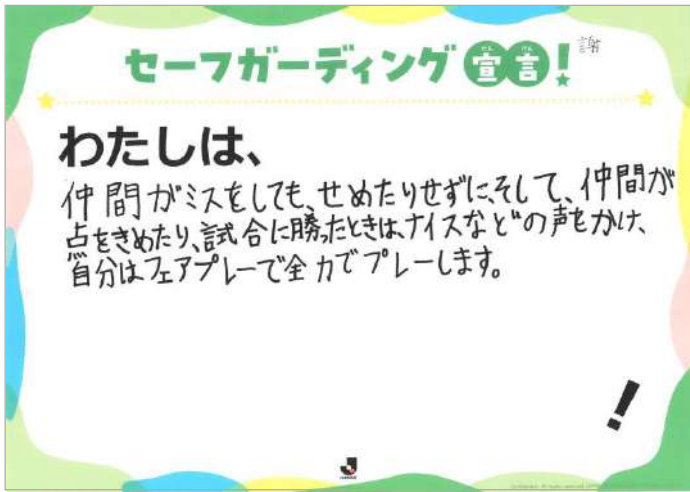
このワークシートには、オンライン試合中、オンライン練習中、オフサピッチの3つの状況について、自分ができること、他の人ができること、そしてしてほしいことを手書きで記入されています。また、感情のアイコンも活用されています。



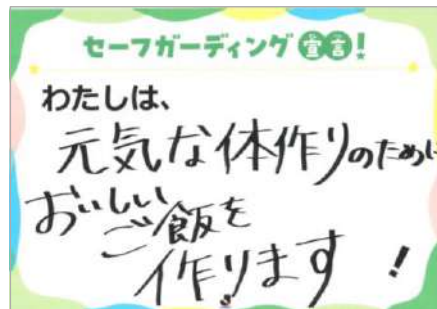
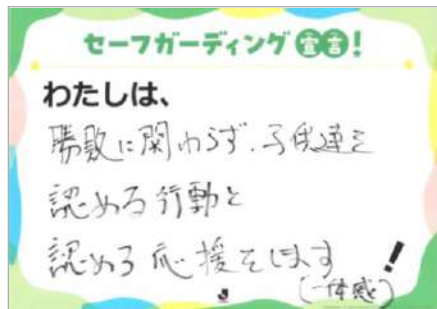


## セーフゲーディング宣言（例）

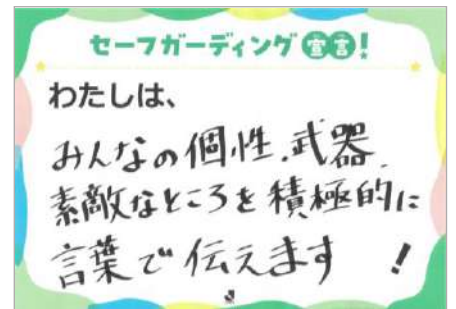
### 選手



### 保護者



### ファシリテーター



## リスクアセスメント（活動のレベル）テンプレート

Jリーグでは、活動を計画する際には、AFC CHILD SAFEGUARDING POLICYに基づき作成した本テンプレートを活用して、活動に対する事前のリスク検討を特定し、そのリスクに対応した活動計画を推奨しています。**すべての新規プロジェクトや活動の開始までに完成させ、関係者にコピーを配布するなど、周知・理解を促すために活用ください。**

参照：AFC CHILD SAFEGUARDING POLICY  
<https://assets.the-afc.com/AFC-Child-Safeguarding-Policy.pdf>

### ■このプロジェクトや活動を通じて、子どもたちとどのような接触を持つか

アセスメント項目	子どもたちとの接触の特定
接触は対面か、オンラインか、デジタルか	
子どもたちはどのような活動に参加するか	
子どもたちは写真や映像を撮られたり、自身の経験などを話すことを求められるか	
保護者が同席するか、スタッフやボランティアが親権者の立場で参加するか	

### ■子どもたちに対する潜在的なリスクは何か

アセスメント項目	リスクの特定
これらの活動に内在するリスクはあるか	
誰が出席するか	
その人たちはMAのスタッフか、ボランティアか、それとも第三者か	
どのような環境で行うか	
どのような身体的、感情的な問題が生じる可能性があるか	

### ■リスクを軽減するためにどのような手段を講じるか

アセスメント項目	アクション計画	アクション責任者	アクション完了日
セーフガーディング計画にはどのようなことが盛り込まれているか/盛り込まれる予定か			
この活動のセーフガーディングに関する連絡先は誰か			
出席している子どもたちにはどのようなサポートがあるか			
懸念が生じた場合、どのように対処するか			
活動開始時に、関係者全員がどのようなセーフガーディングに関する情報を受け取るか			

- このリスクアセスメントがクラブのセーフガーディング領域の責任者または担当者、関係者にコピーされていることを確認してください。

あなたの名前と役割



※記入例（テンプレートを活用し、本研修をアセスメントした例です）

■このプロジェクトや活動を通じて、子どもたちとどのような接触を持つか

アセスメント項目	子どもたちとの接触の特定
接触は対面か、オンラインか、デジタルか	対面で接触
子どもたちはどのような活動に参加するか	セーフガーディングとはなにかについて説明を聞き、質問に回答し、自分の意見を書き、発表する
子どもたちは写真や映像を撮られたり、自身の経験などを話すことを求められるか	公式記録として活動時の写真と映像を撮影され、Jリーグのセーフガーディング教材のファシリテーターマニュアルに掲載され、Jリーグのホームページで公開される
保護者が同席するか、スタッフやボランティアが親権者の立場で参加するか	保護者が同席する場合もあれば、いない場合もあるが、活動中は自身の子どもに関与せず、子どもと同じワークを実施したり発表をする。アカデミーに限らず、クラブスタッフが選手の考えを助ける立場で参加する。進行役として、外部講師（ ）が参加する。

■子どもたちに対する潜在的なリスクは何か

アセスメント項目	リスクの特定
これらの活動に内在するリスクはあるか	ワークショップでは、過去のサッカー活動における不安などネガティブな体験を想起し記録し、共有する機会がある。仲間のネガティブな経験を聞く機会がある
誰が出席するか <small>その人たちはMAのスタッフか、ボランティアか、それとも第三者か</small>	参加者として、U12選手●名、その保護者最大●名/運営として●●、●●、●●（クラブ名）、進行は●●（外部）
どのような環境で行うか	空調の効く室内にて実施。選手のアクセスも慣れている。選手は保護者の車で移動。スタッフも利用に慣れている環境で本活動に必要なスペースと机、椅子など付帯設備が整っている
どのような身体的、感情的な問題が生じる可能性があるか	練習試合とトレセン活動直後であり活動会場までの移動があるため身体的な疲労が残る状況 サッカー活動を振り返る際、ネガティブな感情を想起する際にストレスを感じる可能性がある。発表の際の緊張がある。保護者同席の室内活動に対する緊張がある。初対面の進行役（●●）との接触への緊張がある。初めての内容への心配がある

■リスクを軽減するためにどのような手段を講じるか

アセスメント項目	アクション計画	アクション責任者	アクション完了日
セーフガーディング計画にはどのようなことが盛り込まれているか/盛り込まれる予定か	心的な負荷を軽減するために、余裕を持った告知、事前の活動内容の通知を行う できれば、事前に進行役が選手たちに挨拶をする機会を設ける（練習時） 運営ミーティングで、安心安全を確保するための視点で実施計画を作成する。例えば室温の管理ができる、飲料を各自準備してもらい、進行の際に無理に発言させない、人物特定ができない記入を促すなど。		月 日 月 日 月 日
この活動のセーフガーディングに関する連絡先は誰か	本活動の責任者は、（ ）氏		月 日
出席している子どもたちにはどのようなサポートがあるか	選手たちは、●●アカデミーから出席するスタッフのサポートを受けて活動する。場合によっては保護者もサポートが可能である		月 日
懸念が生じた場合、どのように対処するか	事前に無理に活動しないことを伝達し、楽しい雰囲気づくりを心掛ければ、発言が難しいことを許容する雰囲気づくりを心掛ける。活動からの離脱もあり得る		月 日
活動開始時に、関係者全員がどのようなセーフガーディングに関する情報を受け取るか	活動内容とその活動の負荷を事前に承諾書をもって提示する		月 日

このリスクアセスメントがクラブのセーフガーディング領域の責任者または担当者、関係者にコピーされていることを確認してください。

あなたの名前と役割

## セーフゲーディングワークショップ 事前案内及び承諾書 例

前ページの「リスクアセスメント」の項目である「活動開始時に、関係者全員がどのようなセーフゲーディングに関する情報を受け取るか」に対応するために、活動内容とその活動の負荷を事前に提示するツールとして承諾書サンプルを準備しております。適宜、チームの状況にあわせてご活用ください。

令和●年●月吉日

●●●●●●●●株式会社  
アカデミーダイレクター

●●●●

### SG（セーフゲーディング）ワークショップ開催のご案内

平素は●●の活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。  
この度、Jリーグの取り組みにあるSG（セーフゲーディング）のU-12向けワークショップを開催致します。  
U-12年代から選手・保護者の皆様にセーフゲーディングの存在や重要性を知ってもらうことで、今後のサッカーライフをさらに充実して欲しいと思います。  
今回は●●氏を進行役としてお招きし、ワークショップをしていただきます。  
下記ご家庭でご確認の上、当日までに同意書の提出をお願い致します。

#### 記

テーマ：「セーフゲーディングってなんだろう？」

期 日： 令和●年●月●日●曜日  
16：50 会議室下集合  
17：00 ワークショップ開始  
18：00 終了→アンケート記入後解散

会 場： ●●●●●●

参加者： 選手（必須）・保護者（希望の方）

持ち物： 筆記用具（2色以上推奨。例えば鉛筆と赤鉛筆＋消しゴム、名前ペンなど）  
飲み物（講義中にご自由に飲んでいただけます）

以上

## 同意書

### 選手のみなさん（保護者の皆様もご確認ください）

セーフゲーディングワークショップでは、次のことをします。  
セーフゲーディングとは何かについて考え、話し合い、ビデオを見ます。  
選手のみなさんや保護者のみなさんの考えを紙に書いて、発表します。  
サッカーのときにどのような気持ちになったことがあるかを書いて、発表します。  
他のサッカー仲間の様子も聞きます。  
セーフゲーディングについて考えたことを発表します。  
上記のすべてのことをやりたくないと思ったら、いつでもやめることができます。  
例えば発表したくないときには、発表しなくても大丈夫ですので、安心してください。  
ワークショップはイスにすわって60分、進められます。イスにすわっているのがつらくなったら、いつでも立って歩いてもかまいません。のどがかわいたら、持ってきた飲み物を飲んでください。  
みなさんにとっては初めてのワークショップだと思しますので、できるだけ楽しく参加できるように準備をしています。

### 保護者の皆様

#### ○活動時の写真と映像について

公式記録としてJリーグのセーフゲーディングホームページで公開される可能性があります。

#### ○活動中にご協力いただきたいこと

活動中は皆様ご自身のお子様に関与せず、お子様と同じワークや発表に取り組んでいただきたいと思えます。皆様に世界のサッカー界で大切にされ始めた新しい取り組みを学ぶ機会を楽しんでいただきたいと思えます。

参加は任意ですし、途中参加や途中退出も可能ですので、参加ができない場合でもご安心ください。

選手だけで参加の場合でも、アカデミースタッフやクラブスタッフが選手の取り組みをサポートする立場で参加していますのでご安心ください。

私は、上記記載内容に同意し、アカデミー活動に参加いたします。

20●●年 月 日

（選手氏名）

（保護者氏名）

印

### セーフゲーディング ワークショップ アンケート

日付	20 年 月 日	クラブ名		どちらかに○	選手・保護者
----	----------	------	--	--------	--------

**1.~4.は、あてはまるものに○をしてください**

**1.今日のワークショップは、楽しかったですか？**

楽しかった      少し楽しかった      あまり楽しくなかった      楽しくなかった

**2.今日のワークショップで、「セーフゲーディング」についての考え方はわかりましたか？**

わかった      少しわかった      あまりわからなかった      わからなかった

**3.みんなが安心・安全にサッカーができるために、自分にもできることがあることがわかりましたか？**

わかった      少しわかった      あまりわからなかった      わからなかった

**4.安心・安全にサッカーができないことがあったとき、誰かに相談したほうがよいことがわかりましたか？**

わかった      少しわかった      あまりわからなかった      わからなかった

**5.今日のワークショップで感じたことをどんなことでもよいので自由に書いてください。**





2024年3月  
公益社団法人日本プロサッカーリーグ

協力：大宮アルディージャ、東京ヴェルディ、ジェフユナイテッド千葉、FC琉球

- ・本教材の著作権は、公益社団法人日本プロサッカーリーグが保有しています。
- ・本教材は、児童・生徒・保護者・指導者への啓発・教育を目的として、無償で提供する場合に限り、自由に利用することができます。これ以外での2次利用はおやめください。